



波 濤

第 3 2 号

学 会 会
窓 員 記
大 同 政
送 奈 川 委
放 神 務
行 集 総
編 集 者
責任者 笠 井 政
発行日数 平成 1 8 年 9 月 1 日
会員数 8 6 7 名 (平成18年9月1日現在)

ご挨拶

神奈川同窓会

会長 笠井政記

去る五月十四日に開催されました総会において神奈川同窓会会長に選出されました笠井政記でございます。

諸先輩方が築かれられました神奈川同窓会の歴史と伝統をしっかりと受け継ぎながら、会員皆様方のための同窓会として、更に飛躍を目指して頑張りたいと思います。

当面の課題は、

一、会負数の増員

東京地区の会員数は、猶に三千人を越えます。神奈川は、人口も東京に続いて全国で第二位です。しかし、同窓会の会員数は、九百人に満たしません。積極的に活動し、会員を増やしていきたいと思えます。当面は、千人を目指します。

二、支部の設置

きめ細かいサービスを提供し、会員増を図るために支部を設置したいと思えます。併せて、減少傾向にある放送大学生の増加を目指します。

三、終身会員の検討

現在当会員は、終身会員と一般会員の方が混在しておりますが、経理処理上等にて不合理が生じておりますので統一を検討していきたいと思えます。

四、社会貢献事業の継続

前会長が足がかりをつけていただいたので社会貢献事業引き継いでいきたいと思えます。

以上でございますが、今後檢 ぞ進め、出来ることから実施していきたいと思えます。

よく、会社の経営は、「資本と経営と労働」とが完全なる三位一体でなければ発展はない」と言われております。この同窓会にても同じ様なことが言えると思えます。

今後進むべき理想的な同窓会とは、資本すなわち出資者(会員の皆様)、経営すなわち執行部一同、労働すなわち学校事務局のご協力の三位一体となる必要があります。

この三つのうちどれが欠けても同窓会は成り立たしません。また、その結びつきが完全でない場合は、絶対に発展いたしません。如何なる困難に会おうとも完全なる三位一体になるならば、その底力によってどんな荒波でも乗り越えて行くことが出来るもの思えます。

今後とも、会員の皆様方の暖かいご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。



第十七回通常総会報告

第十七回放送大学神奈川同窓会通常総会が、平成十八年五月十四日(日)午後一時から神奈川学習センター第一講義室において開催されました。笠井理事の司会により、議長団及び書記団選出の後、次の議案が提出され審議されました。

- 一、平成十七年度活動報告
- 二、平成十七年度収支・決算報告及び監査報告
- 三、平成十七年度フオスター・プラン活動報告
- 四、平成十七年度フオスター・プラン収支・決算報告及び監査報告
- 五、平成十八年度活動計画(案)
- 六、平成十八年度収支・予算(案)
- 七、平成十八年度フオスター・プラン活動計画(案)
- 八、平成十八年度フオスター・プラン収支・予算(案)
- 九、平成十八年度役員選任(案)

以上九件の議案は賛成多数で原案通り可決承認されました。

【総会成立の確認】

会員総数 八五一名
(平成十八年三月三十一日現在)
出席者数 三十六名 委任状数 二七七名
合計 三三三名

会則第十二条により総会は成立しました。

平成17年度同窓会収支決算書

単位：円

収入の部

科 目	予算額	決算額	差異	摘要
(1)前年度繰越金	3,693,888	3,693,888	0	会員名簿引当金40万円含む
(2)本年度収入	1,307,000	852,757	△ 454,243	
①入会金	250,000	240,000	△ 10,000	入会者 48口
②年度会費	851,000	404,000	△ 447,000	会員延べ口数 404口
③寄付金	5,000	8,640	3,640	
④利子	1,000	117	△ 883	
⑤会員名簿引当金	100,000	100,000	0	5年毎発行の名簿作成費用として5年目。個人情報保護法により保留する
⑥ 雑収入	100,000	100,000	0	連合会からの補助金
合計(1)+(2)	5,000,888	4,546,645	△ 454,243	

支出の部

科 目	予算額	決算額	差異	摘要
(1)本年度経費支出	1,260,000	707,708	552,292	
A活動費	400,000	207,331	192,669	
①会報費	200,000	119,840	80,160	波濤第29号、30号印刷
②活動運営費	150,000	69,338	80,662	講演会、見学会、フォスター・プラン、社会貢献
③卒業祝賀運営費	50,000	18,153	31,847	9月卒業祝賀会補助
B事務運営費	860,000	500,377	359,623	
①連合会活動費	0	0	0	
②会議費	20,000	2,660	17,340	役員会コピー代
③交通費	100,000	65,840	34,160	役員会交通費
④通信費	300,000	250,730	49,270	総会資料、波濤発送
⑤振替手数料費	30,000	27,240	2,760	会費等振替手数料
⑥消耗品費	20,000	8,697	11,303	宛名ラベル、事務用品
⑦交際費	20,000	2,000	18,000	対外交際費
⑧雑費	20,000	6,410	13,590	備品代
⑨HP準備金	150,000	0	150,000	次年度へ繰越
⑩予備費	100,000	36,800	63,200	神奈川センター長 森谷正規教授の公開講演会協催
⑪会員名簿引当金	100,000	100,000		5年毎発行の名簿作成費用として5年目。個人情報保護法により保留する
(2)次年度繰越金	3,740,888	3,838,937	△ 98,049	
合計(1)+(2)	5,000,888	4,546,645	454,243	
備品目録 パソコン及びプリンター各1台 平成15年度購入				

平成17年度フォスター・プラン収支決算書

単位：円

	科 目	予算額	決算額	差異	摘要
収入部	1 前年度繰越金	985,149	985,149		援助金基金を含む 138件（内133件は口座振込）
	2 寄付	320,000	315,200	4,800	
	3 同窓会より助成金	10,000	10,000	0	
	4 貯金利子	50	17	33	
		本年度収入計	330,050	325,217	4,833
	合 計	1,315,199	1,310,366		
支出部	1 援助金	300,000	300,000	0	5人分(¥5000X12ヶ月x5人)
	2 活動費	10,000	0	10,000	
	3 事務費-1	15,000	10,210	4,790	口座振込手数料 他
	4 事務費-2		3,273	-3,273	振込用紙印刷代 他
	5 通信費	10,000	7,794	2,206	切手ハガキ 封筒代
		本年度収出計	335,000	321,277	13,723
	次年度へ繰越	980,199	989,089	-8,890	
	合 計	1,315,199	1,310,366		

会計報告
 平成十七年度収支決算書
 自 平成十七年四月一日
 至 平成十八年三月三十一日

平成十八年度活動計画

本会は、会員の親睦、情報の交換、相互研鑽、社会への貢献、放送大学の発展に寄与することなどを目的として、魅力ある同窓会となるよう左記の通り活動を計画する。

一、講演会開催 五月十四日(日) 総会終了後
演題 「なぜ日本人は珈琲を好きになったのか？」
講師 放送大学助教授 坂井素思先生

二、六月四日(日) 「健康ウォーキングと
江ノ電・鎌倉の旅」

三、行事予定

①八月二十七日(日) フェスタ・ヨコハマ共催

②十月一日(日) 卒業祝賀会共催および
新規会員の募集活動実施

③十月二十九日(日) 日光街道の初宿・千住と
芭蕉旅立ちの足跡をたどる
詳細は七頁の企画だよりにあります

④二月十八日(日) 映画鑑賞会
詳細は七頁の企画だよりにあります

⑤三月二十四日(土) 卒業祝賀会への参画及び
新規会員募集活動実施

⑥役員会開催 年八回ないし九回

⑦会報「波濤」 発刊年二回

⑧フォスター・プラン活動への参加
発展途上地域の子供とその家族、地域に対する
経済的、精神的援助を目的とする。
活動は主にフォスター・プラン実行委員会による

四、その他

放送大学同窓会連合会への参画
身近な社会貢献活動への参画

平成十八年度

フォスター・プラン活動計画

本同窓会では、活動目的のひとつである「社会への貢献」の一環として、平成三年十二月から(財)日本フォスター・プラン協会(NGO)が行っている「フォスター・プラン」に参加しています。
「フォスター・プラン」は、アジア・アフリカなどの発展途上国で、子供を取り巻く環境改善を目的として、保健・衛生・居住環境の改善、教育・人材の育成、技術開発など多岐にわたるプロジェクトを実施して地域開発を進めています。

フォスター・ペアレントから送られる援助金は、フォスター・チャイルドやその家庭を支援するだけではなく、地域で実施するこれらのプロジェクトに役立てられています。また、子供とその家族・地域に対する精神的援助も行っています。

本会では、この趣旨に賛同する会員の皆様からの寄付金を基に、フォスター・ペアレントとして現在五人のチャイルドを支援しています。今年度も引き続き以下の支援活動を行います。

一、フォスター・チャイルド五人への資金援助と、
文通などによる交流

二、同窓会会員への募金活動
(年一回「波濤」に振込用紙を同封)

三、講演会・勉強会の開催

四、広報活動の促進

参考資料(チャイルドの写真、手紙、
学習センター談話室 成長記録などのパネル展示
フェスタ・ヨコハマ)会場等
会報「波濤」に活動報告を掲載

五、チャイルドの母国大使館や関係機関との情報交換
及び、チャイルド訪問の検討

第20回放送大学神奈川学習センター学園祭

フェスタ・ヨコハマ

8.27(日)
開催

丹保学長来たる!

記念講演「今我々のいるところ」～21世紀の日本～ 午前10時30分開演
講師 放送大学長 丹保憲仁先生
交流会(屋外での立食パーティー) 午後0時30分から

放送大学長 丹保憲仁先生講演

今我々のいるところ

二十一世紀の日本



<議論百出の活発な審議が行われた総会の風景>

平成18年度同窓会収支予算書

単位：円

1. 収入の部

科 目	予 算 額	摘 要
(1)前年度繰越金	3,838,937	会員名簿引当金50万円含む
(2)本年度収入	1,623,000	
①入会金	250,000	入会者 50名
②年度会費	867,000	会員 867名
③寄付金	5,000	
④利 子	1,000	
⑤記念誌発行引当金	500,000	会員名簿引当金5年を終了したが、個人情報保護法により保留
合 計	5,461,937	

2. 支出の部

科 目	予 算 額	摘 要
(1)本年度経費支出		
A 活動費	400,000	
①会報費	200,000	会報「波濤」印刷
②活動運営費	150,000	講演会、見学会、フォスター・プラン、社会貢献等
③卒業祝賀運営費	50,000	9月卒業祝賀会補助
B 事務運営費	1,260,000	
①連合会活動費	0	
②会議費	20,000	役員会資料
③交通費	100,000	役員会
④通信費	300,000	総会資料、「波濤」発送費
⑤振り替手数料	30,000	会費等振替手数料
⑥消耗品費	20,000	宛名ラベル、事務用品
⑦交際費	20,000	対外交際費(他同窓会との交流等)
⑧雑費	20,000	備品代
⑨HP準備金	150,000	HP作成準備金(前年度より繰越)
⑩予備費	100,000	
⑪記念誌発行引当金	500,000	会員名簿引当金5年を終了したが、個人情報保護法関連により記念誌発行引当金に変更
(2)次年度繰越金	3,801,937	
合 計	5,461,937	

平成18年度フォスター・プラン予算書

単位：円

1 収入の部

科 目	予算額	摘 要
(1)前年度より繰越	989,089	援助金基金30万円を含む
(2)寄付	320,000	前年度決算額参考
(3)同窓会より助成金	10,000	
(4)貯金利子	50	
平成18年度収入計	330,050	
合 計	1,319,139	

2 支出の部

科 目	予算額	摘 要
(1)援助金	300,000	チャイルド5人分
(2)活動費	10,000	
(3)事務費	15,000	
(4)通信費	10,000	
小 計	335,000	
次年度へ繰越	984,139	援助金基金30万円を含む
合 計	1,319,139	

平成十八年度予算書
 自平成十八年四月一日
 至平成十九年三月三十一日

放送大学助教 坂井素思先生 講演会

演題 なぜ日本人は珈琲を

好きになったのか？

総会後の講演会に出席して

志賀 健三

五月十四日(日)総会終了後に坂井先生の講演をお聞きしました。現在、先生は放送大学本部で放送大学大辞典を編纂されていて、この辞書は各分野の知識を他の分野と結びつけてゆくという役割が期待されるそうです。

講演の冒頭で珈琲との出会いについて、の思ひ出を幾人かの方に尋ねられました。私自身も記憶をたぐりよせようと思いましたが思ひ浮かびませんでした。

なぜ日本人がコーヒーを好きになったのかを考える糸口として、三つのポイントを上げられました。一つにはどのような出会ったのか。江戸後期(一八〇四年)大田蜀山人は「焦げくさし味ふるに堪ず」と評している。このようにコーヒーは外来の文化として、新しいもの、もの珍しいものとして、ほんの一部の特権階級の人々のみによって認識される商品として、日本人の前に出現した。

二つには消費が急激に伸びたプロ

セスは。日本(一)工場労働などが盛んになってきており、労働と両立できる興奮剤が求められるようになっていた。

三つには喫茶店がどのような影響をあたえたか。チェーン店カフェー、パウリスタの誕生により喫茶店の点から線への展開への端緒をひらいた。その結果、暫定的で中間的な結論として大衆化、覚醒文化の必要性、喫茶店によるネットワーク型消費の展開などが、社会経済要因として挙げられるとしている。

珈琲一つを取り上げても日本経済の移り変わりの様相や背景が見えてきて興味深い。後日、コーヒー消費の急激な伸びには手頃な値段への変化が、一つの要因としてあったのではと疑問を持ったので、値段史年表で調べてみたところ見事に外れました。ちなみに一九〇〇年から一九三〇年にかけて国家公務員の初任給はおおかた五十円から七十円台で推移しているのに対し、「コーヒー」杯の値段は二銭から十銭で寧ろ値上がり傾向でしたから。

今回は戦前の資料を中心にお話になりましたが、次回にはぜひ戦後についても、お聞きしたいと思えます。講演会終了後は先生を囲み「玄や」でにぎやかに懇親会が行われ、懇親会終了後は喫茶店へ、それぞれ思い思いに酌量文化と覚醒文化を楽しみました。

男の好青年 ネット

頼成 敦子

坂井素思先生のコーヒーの講演で「体制に関係なく、絆が弱ければ弱いほど、強いネットで結ばれています」と言われたところに、心ひかれました。「男の好青年のネット」もそうかもしれないと思えました。まず三つの例を紹介いたします。

①昭和三十一年頃叔母は四畳半十部屋の木造二階建てアパートを建てましたが、古くなったある日、私は契約書を整理していて叔母に「東芝の人達だけ権利金ナシだけどなぜ？」と。叔母は「中学を出てすぐ、親元を離れたのだぞ。安給料でさ。権利金を取れるか?」「その気持ち、をみんなは知っていたの?」「知らなかっただろうなあ」とのこと。

②昭和四十年代の事。同じ叔母は銀行の若い男の担当者からコーヒーをおごられました。「いいと言うのに」「ごちそうさん、とは言ったけど、安月給の子からおごられたコーヒーなんてうまくなかったよ」と言いました。その言い方がおかしくて私はふきだしました。

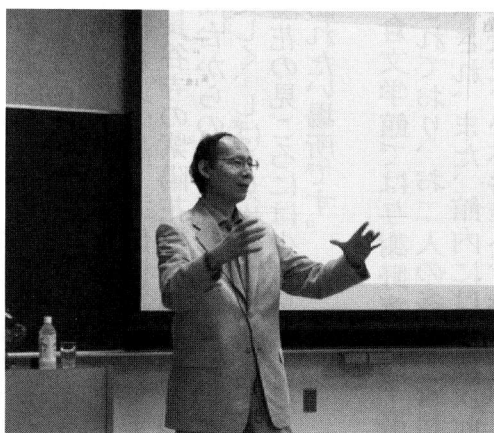
一二例では安月給でも一生懸命働く若者。叔母は「お金を大切にね」という気持ち。

③私が見た好青年。二、三年前の事。私は東海道線で青年に席を譲られました。間もなく彼は顔の汗を拭き、汗

の量が多くなって流れていました。私は一駅だけでしたからお札を述べて降りました。後日「老年の女性に席を譲って大汗をかくななんていい感じ!」と思、人間研の〇〇さんに話しました。彼女も「いいお話ですね。いまどきそういう若い人がいるなんて嘘みたい」とおっしゃったので彼を好青年に推薦いたしました。

◎ まとめ 彼ら好青年は体制とは関係ありません。また、彼らは知り合いでもありませんから絆もありません。けれども好青年という共通のネットで強く結ばれていると思えました。好青年の存在はこの例だけではないことは言うまでもありません。

◎ 反省点 坂井先生の講演はデータに基づいて実証的でありました。私の方は好青年のデータはありませんし物的証拠は賃貸契約書だけですから実証性はありませんでした。



鯉沼 正弘

六月四日、午前九時半横浜市営地下鉄線、湘南台駅東口を出発する。天候はまずまず。十五分も歩くと境川にでた。川幅はそれほど広くない、城山湖附近を源流に町田市ほか四市を流れ相模湾に注いでいる。境川沿いには大和から藤沢に至るサイクリングロードが整備されており、道は自転車と歩行者兼用で自転車と頻繁に行き交うお揃いのユニフォームを着た一団高齢者夫婦、親子ずれが思い思いの服装で自転車走らせている。川を挟んで遠くになだらかな丘陵が続く。田植えをしている人々も見える。

朝は曇つてたが時間が経つにつれて晴れ、少々暑い、誰かが「あの赤い屋根の家でおいしいアイスクリームを造っている」との声。しかし、時間がない、次にとつておこう。かなり歩いた。土手で一服する。ふと水面に黒い影、目を凝らすと鯉の群れだ。かなり大きく数十匹いるようだ。これからも清流が続くことを願う。

お腹も大分空いた。今日は休憩所で食事を取る。しばらくの間、思い思いの話題にふける。「出発の声」で藤沢駅に向かつてウォーキングを再開する。下水処理場を左手に、藤沢市民病院が右手に見えてくると間もなく江ノ電藤沢駅も近い。

藤沢駅で切符をもとめ電車に乗り込んだ車両は、四両連結うち二両はレトロ風。電車は走り始めたが何とも遅い。軒先をかすめ、すまなそうに走る

台所の臭いが車内に漂ってきそう。鵜沼を過ぎ江ノ島駅に到着した。人出は多い。腰越から長谷の間は、目の前が開け車窓の眺めはずばらしい。

私たちは長谷駅で下車した。長谷寺、鎌倉文学館、高德院へと歩みを進めた。

高德院の境内にある「ある碑」について触れたい。薄暗い境内の片隅に「スリランカのシヤヤルデネ大統領の碑」がある。碑には、「昭和二十六年九月、サンフランシスコ講和会議、出席各国代表に向かつて、日本に対する寛容と愛情を説き、日本に対する賠償請求を放棄することを宣言し、更に一部の国々の主張した日本の分割に真向から反対しこれを退けた」とあった。

鎌倉を散策する人々は、相変わらず多い。折から祭礼と重なり、車は渋滞、人々は道にあふれ大変な賑いである。足の疲れもあるが心地よい初夏の一日を過ごした。

以上



<鎌倉文学館前で>

市川 つわ

「海を見たい」「運動不足を解消したい」と日ごろから頭の隅にある思いを叶えてくれるような企画に一ヶ月以上も前から楽しみにしていました。同窓会行事に参加するのは初めてのことであり、不安もありましたが、六月四日(日)朝九時三〇分に集合場所に行くと、皆さんが親しく声をかけてくださり、すぐに打ち解けてお話しをすることができました。

参加者は男性六人、女性四人の合計十人で、お天気は朝のうちは曇っていました。日中は陽射しが強く、日焼けを気にしながらの一日でした。

まずは湘南台駅から境川自転車歩行者道路に入り、藤沢駅までウォーキングのスタートです。道々、川沿いの土手に咲く花を見つけては、幹事の芝崎芳和さんお得意のカメラで撮られた草花の写真資料と見比べたり、川の鯉や畑の作物を眺めながら2時間あまり長閑な田園風景を満喫しました。

藤沢駅から江ノ電に乗り、さあ、次は海を見る番です。進行方向右側に座り車窓からしばらく外を見てみると突然青い海原と白い帆のヨットやサーファアの姿が目に見え込んできました。

打ち寄せる波や海の輝きが懐かしく、今ではあまり行くことのない故郷の海を思い出しました。私の故郷は八丈島です。湘南の海とは大分違うのですがこの海の彼方に八丈島があるのだと思うと、水平線を眺めているだけで心が和みま

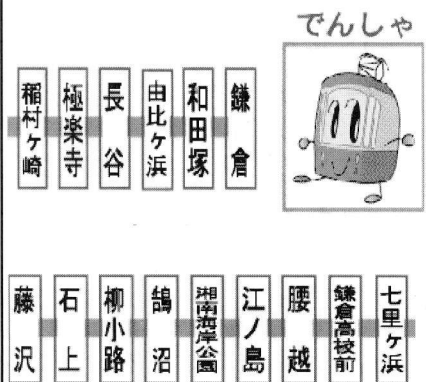
す。次回は海辺まで行って、潮騒や潮の香りを満喫したいです。海は私にとつて心のふるさとです。

最後は長谷駅で電車を降り、長谷観音、鎌倉文学館、大仏様を見学しました。長谷からの眺望は、由比ガ浜がとても美しく、しばし見惚れてしまいました。紫陽花の見ごろには少し早く、もう一度訪れたい場所です。

鎌倉文学館では与謝野寛・晶子展が催されており、お二人の多くの資料が展示され、また、館内には大佛次郎、川端康成、小林秀雄など鎌倉ゆかりの文学者自筆の原稿などが展示してあり、その時代の文化や生活様式が伝わってくるようでした。建物や庭園も美しく、ベランダからみる景色は、長谷寺でみた風景と同様に海が見え、周囲の緑とマッチしてそれはもう言葉では言い尽くせないほどの素晴らしい空間でした。

久しぶりに二五〇〇歩あるき、期待以上の美しい海に出会え、そして素敵なお仲間にも出会えて(地元銘菓、お煎餅、鎌倉アイスなどたくさん差し入れ、ご馳走様でした)、楽しい一日を過ごせたことに感謝いたします。

江ノ電の路線



日光街道の初宿・千住と芭蕉旅立ちの足跡をたどる

開催日程：平成18年10月29日（日）
 集合場所：JR横浜駅 東海道線上りホーム 最後部付近
 集合時間：午前10時

江戸深川の採茶庵を舟で発った芭蕉は、千住大橋のたもとに降り立ち、ここから奥の細道の長い旅路が始まった。「行く春や 鳥啼き魚の目は涙」。親しい人々に舟で送られ、千住に上ると、これから前途はるかな旅路につくのだという思いで胸が一杯になった。この情景をメインテーマに我々も旅を始めます。

JR横浜駅→JR上野駅経由→JR常磐線南千住駅→回向院→スサノオ神社→大橋公園→
 やっちゃば（青果市場）跡→勝専寺→本陣跡→伝馬屋敷（横山家）→名倉医院→JR北千住駅→
 JR横浜駅→懇親会→解散（18時予定）

（徒歩時間1時間30分程度、所要時間3時間）

皆様、お誘い合わせて是非ご参加下さい。 幹事：木村勝紀・芝崎芳和・滝本和子

申込み先：木村 勝紀

申込方法：ハガキ : 〒245-0006 横浜市泉区西が岡1-19-23

電話：045-814-2901

eメール：kimukatu@ee.catv-yokohama.ne.jp

申込締切：平成18年10月28日（土）

携帯品：昼食弁当、健康保険証

費用：各自負担

「映画のお話」と「映画鑑賞会」のお知らせ

毎年ご好評を頂いております「映画のお話」と「映画鑑賞会」を下記の要領にて開催致します。皆様奮ってのご参加をお待ち申し上げます。

1 開催日：平成19年2月18日（日） 13:00～16:00

2 会場：放送大学神奈川学習センター内 講義室

3 プログラム

(1) 第1部 「映画のお話」 13:00～14:00

演題：「戦後ヨーロッパ映画の輝き」

講師：西浦久晏氏 横浜映画研究会会員 放送大学卒業

(2) 第2部 「映画鑑賞会」 14:10～16:00

上映作品：「ひまわり」 1970年イタリア映画

監督 ヴィットリオ・デ・シーカ

主演 ソフィア・ローレン

マルチェロ・マストロヤンニ

音楽 ヘンリー・マンシーニ

むかし懐かしい映画ですね。地平線にまで及ぶひまわり畑の美しさ、一途な愛と戦争の悲劇を描いた名作です。

『企画だより』

企画担当 芝崎芳和 0466-25-0090

一人でも多くの同窓生と集える機会を作るために毎年企画をしています。

是非、お気軽にご参加ください。

又、何か企画にご提案などありましたらお教え下さい。

参考にさせて頂き、よりよい同窓会にしたいと思っています。

日本フオスター・プラン

協会について

同窓会では、活動の一つである「社会への貢献」の一環として、一九九一年より「フオスター・プラン」活動に参加をしております。皆様からの援助金を基に現在五名のフオスター・チャイルドの支援をしておりますが、今回は当実行委員会の活動もとである「フオスター・プラン協会」をご紹介します。と思っています。

フオスター・プランとは

フオスター・プランは、国連に公認・登録されたNGOです。NGOとは、民間で非営利の国際援助団体のこと。特定の宗教や政治には関係ありません。活動の始まりは一九三七年。現在、アジア・アフリカ・中南米の四十五ヶ国で、地域の人たちの積極的な参加のもと、子どもたちをとりまく生活環境の向上を目指し、多岐にわたる開発援助プロジェクトを進めています。「フオスター」とは、英語で、『育てる・奨励する』という意味。貧困による深刻な問題を抱えた途上国のなかで、最も弱い立場にあり影響を受けやすいのは、子どもたちです。未来を担う子どもたちが、それぞれの希望を持てる明日を実現するために、フオスター・プランは子どもに焦点をあて、その声を尊重したプロジェクトを行っています。

大切な三つの活動方針

一、子どもとその家族、地域の人びとの生活環境を整え、彼らが能力を発揮し、村づくりを維持できるように支援します。

二、世界中の異なる文化を持つ人びとが互いを尊重し、理解を深められるような関係づくりをします。一方通行ではない、心の通った協力関係を目指します。

三、子どもたちが安全で健康な生活を送ることができるよう、彼らの権利を尊重し、受けるべき利益を確立できるような努力をします。

五分野での地域開発

子どもたちが健やかに成長してその能力を発揮できるように生活環境作り。それを実現させるためにフオスター・プランでは以下の5つの分野で活動を行っています。地域の人々のニーズや意志によって、活動の内容はさまざまに変わるので、ここに紹介するのはほんの一例です。

- *保健医療と子どもの成長
- *教育と学習
- *住まいと生活
- *住民と生計
- *相互理解と協力

日本フオスター・プラン協会

URL: <http://www.plan-japan.org>

会員の皆様からの援助金は、フオスター・チャイルドとその家族を支援するだけでなく、地域の多岐にわたるプロジェクトの実施や、チャイルドとその家族・地域の精神的援助も行っています。

今後とも皆様の温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

フオスター・プラン実行委員
委員長 笠井 政記

平成十八年度役員

「同窓会役員」

- 会長 笠井 政記
- 副会長 和田正純・木村勝紀
- 事務局長 千葉良一
- 事務局 志賀健三・大熊津夜子
寺村紀美夫・岡本興和
- 企画 芝崎芳和・滝本和子
- 会計 頼成敦子・浅井公子
- 監事 龍造寺寛・片野克己

「退任役員」

五十嵐一成・松岡和正・椎橋秀光

(皆様 長い間

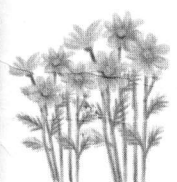
ご苦勞様でした)

「フオスター・プラン実行委員」

委員長 笠井 政記

委員

大泉トク・坂本春江・志賀健三
千葉良一・藤井輝・星礼子
森西節子



会計・事務局からのお願い

神奈川同窓会では、会員の皆様に、入会時に入会金五千円、年度会費として千円を納入して戴いております。過年度分、未納の方は、四月発行の「波涛」に同封の振込用紙にて、平成十八年度年会費をお振込み下さいませようお願いします。

振込み用紙の記載について

住所氏名を記入の際は、恐れ入りますが楷書での記入とフリガナの記載をお願い致します。

住所変更をされる方

変更後の住所・電話番号等を振込み用紙に記入する際は、「住所変更」と朱書をお願い致します。

同窓会活動にご協力して下さい方を、役員一同切望しております。ご協力頂けそうな方のご推薦も、是非お願い致します。その他、お問合せ等は左記にご連絡お願い致します。

口座番号 00250-4-16183
〒232-0061

横浜市南区大岡二一三二一
放送大学神奈川学習センター内
神奈川同窓会事務局

連絡先 : 090-3817-5858

笠井 政記